HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	全員起立！ : UNI.SUMMIT2008
Relation	国際学生サミット「UNI.SUMMIT2008」. 平成20年6月28日～平成20年6月29日. 札幌市
Issue Date	2008-06-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33931
Type	other
File Information	48-1.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP



UNI.SUMMIT 2008

～概要～

■日時：2008年6月28日29日
■場所：北海道大学　クラーク会館　理学部講堂
■参加人数：158名

～目的～

★問題意識や提案に対しユースのユニークな切り口でアプローチする
★「学生時代においてできる事は無限大。やりたいことがあれば、一歩踏み出す勇気があれば、なんでもできる。」そのことをサミットを通して発信し、受動的な学生に自発的な行動を起こすことができるよう、アシストする

～行動～

●学生たちの「○○したい」という思いを議論する場を作る
●ディスカッションとブースによるポスターセッションにより団体の活動アピールや情報共有を行う
●UNI.SUMMIT終了後、参加者の声を世界の学生に向けて発信する
●学生主体の国際サミットを来年以降も継続して行う

UNI.SUMMIT 2008

北海道発の国際学生サミット
多分野交流だから起こりうる大きな社会貢献へ
北海道を活性化、そして世界を元気に！

若者よ、大志を抱け！

①

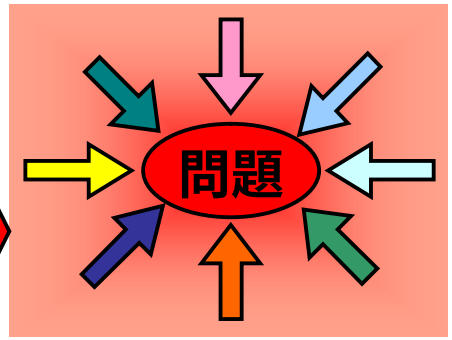
テーマは「若者が持つ大きな志」

若者の大志
↓
北海道を活性化
↓
世界を元気に！

潜在的に大きな志を持つ若者は多いが、それを開花させていない人が多いのも事実である。その背景として開花させる土俵が無い、同志が見つからないなどの「コミュニケーション・情報の不足」がある。
UNI.SUMMIT2008はそれを解決し、北海道を活性化して世界を元気にしていくことを目指す。

異分野との交流で大きな広がりを目指せ！

②

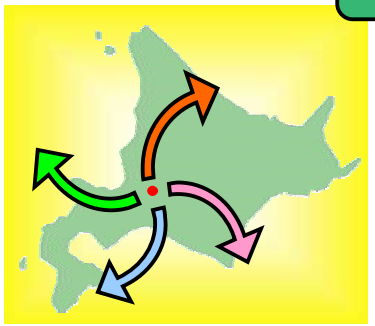


環境や平和など、人間が抱える問題は山のように存在する。それら一つ一つをどれだけ多くの人間が意識できるかで世界は変わってくる。専門や担当はあっても縄張りなんて存在しない。多くの視点で解決のアプローチを探っていこう。

■コンスタントな他分野同士の交流会開催
■海外生との意見交換会開催

積極的に意見を世界へ

③



若者が北海道から世界へ積極的に情報発信できる環境を作り出し、活性化した北海道をアピールする

■北大姉妹校を通して海外生と情報共有
■HP・資料の英語化によるUNI.SUMMITグローバル化

次へ、次へ、のサステナビリティ

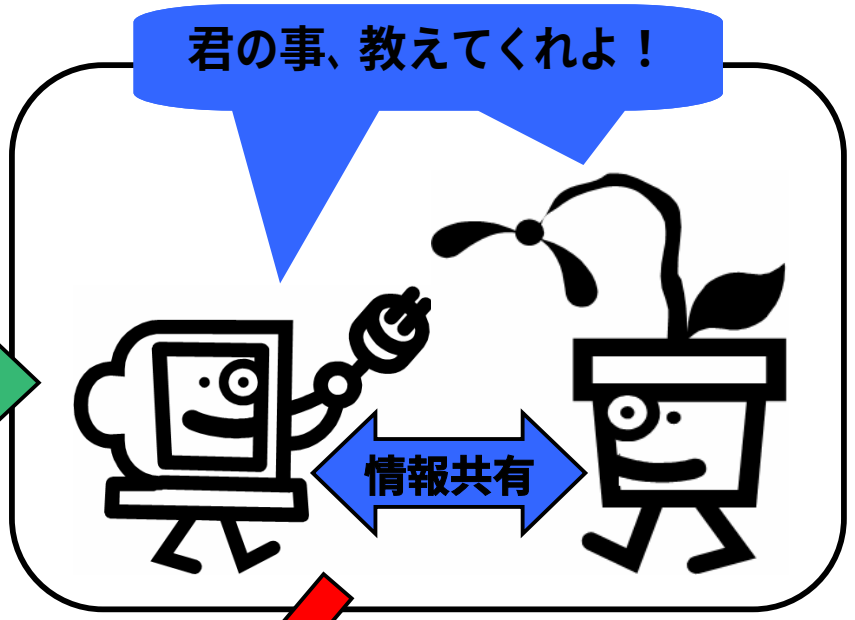
④

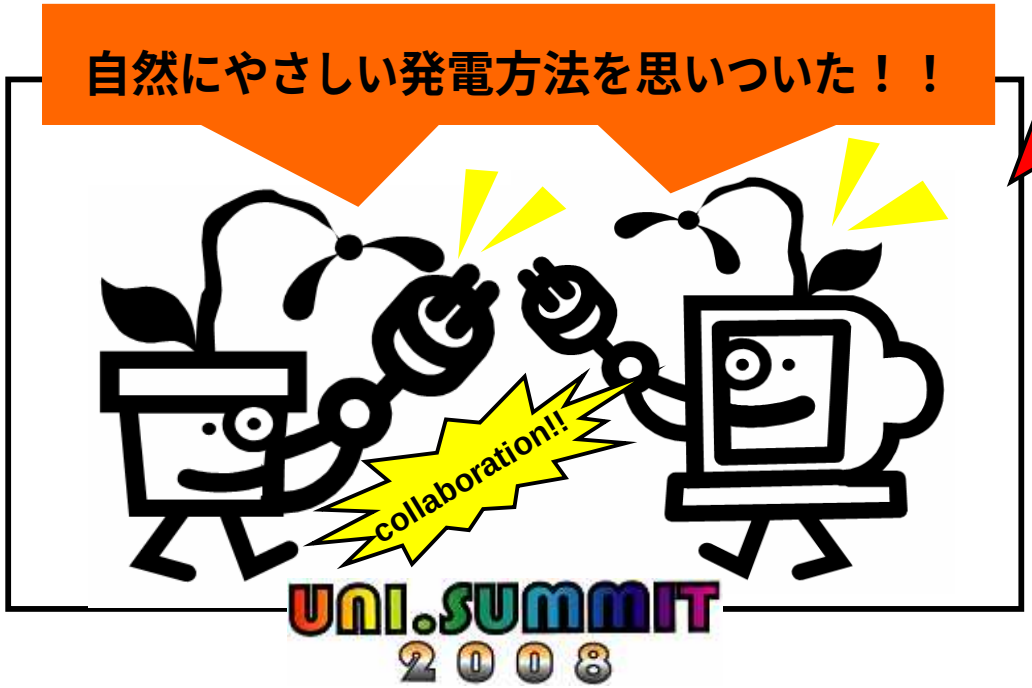
我々UNI.SUMMITは若者たちのパワーを広げ、後に繋げるために様々な活動を行っていく

■UNI.SUMMIT２００９実行メンバー編成
■参加団体の資料蓄積
■組織運営のマニュアル化
■積極的なオンラインツールの活用による情報交換

①若者よ、大志を抱け！
②異分野との交流で大きな広がりを目指せ！





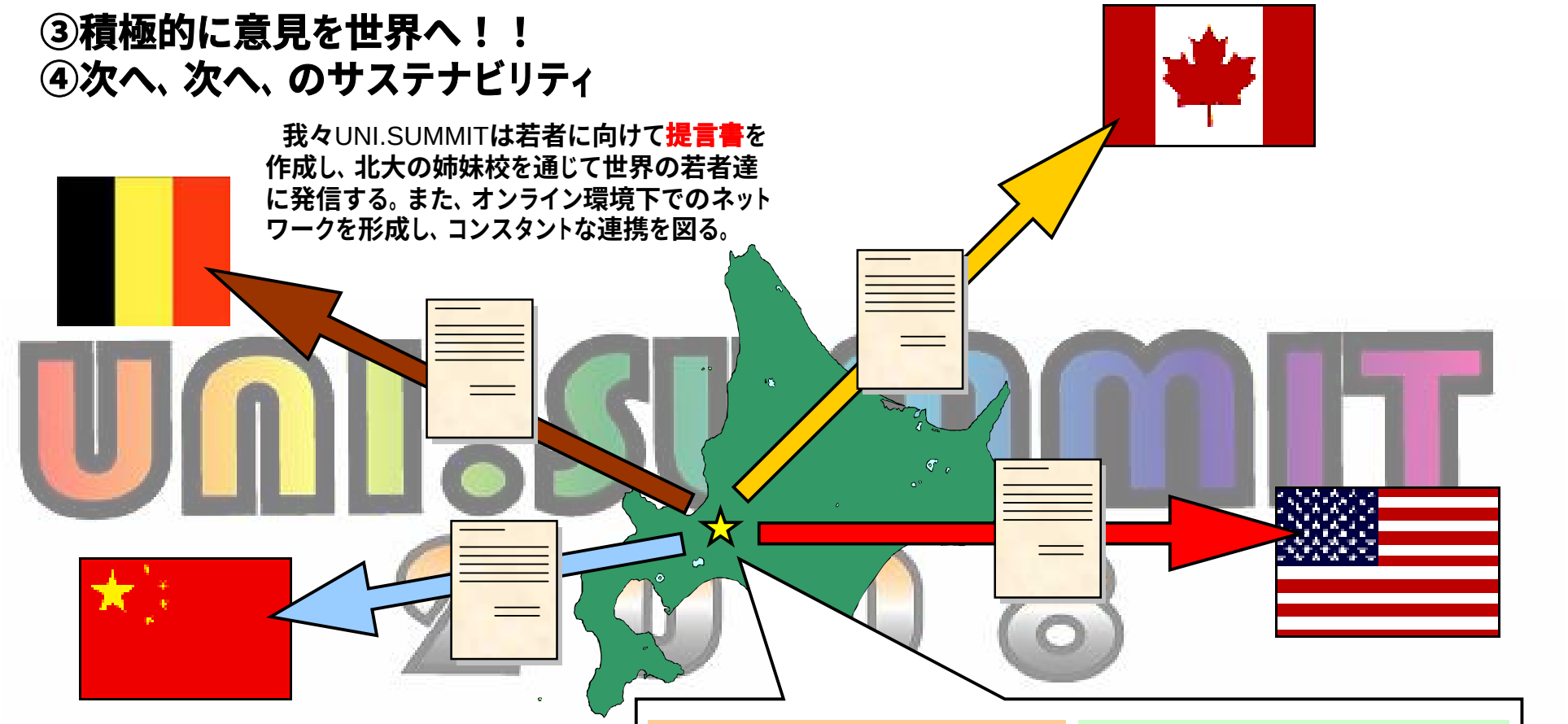


お互いがお互いの活動を
発展･加速 させる！

大きな志には広い見識が必要である。自分の得意分野、専門分野にとらわれず多くの知識を吸収することの重要性を再確認する。

③積極的に意見を世界へ！！
④次へ、次へ、のサステナビリティ

我々UNI.SUMMITは若者に向けて**提言書**を作成し、北大の姉妹校を通じて世界の若者達に発信する。また、オンライン環境下でのネットワークを形成し、コンスタントな連携を図る。



提言書

提言書では以下の項目を掲載すると同時に、UNI.SUMMITの運営マニュアルや各団体に関する情報を英文化したものを添付する。

■各団体による活動の持続･発展への意思表明
■具体的持続･発展手法に関する、
　情報共有への同意

ブースでの活動発表

精力的な学生団体が自分達の活動をポスター等を用いてアピールする。このブースセッションは**一般開放**され、外部から来た学生や一般客との交流により様々な問題提起や提案を発信する。

UNI.SUMMIT2009（次年度）の実行メンバー編成！！

次年度の実行メンバーを既に編成し、運営に必要なノウハウの引継ぎおよび資料のまとめ作業が進行中。

学生達によるディスカッション

大きな志を持ち、日々行動している学生達による討論会を行う。これからの社会へ向けた活動をいかに**持続･発展**させるかを主軸とし、その**持続性確保の具体的方法**を共有する。

議題･論点

■各団体の**サステナビリティ**はどのように
　確保するのか
■各団体からの問題提起･提案

UNI.SUMMIT2008 参加団体

そら祭り



【1】団体目標
音楽を通じ、「場所の大切さ」を全国に伝えること

【2】現在の活動
全国をまわり、定期的にそら祭りを開催

【3】これまでの成果
全国各地で数多くのそら祭りを開催し、7月20日には北海道モエレ沼公園でのステージが開催予定。

World Hokkaido Bridge



【1】団体目標
北海道という地に「エコキャップ運動」を広め、環境に対する意識を高めてもらうこと

【2】現在の活動
環境問題に関する啓蒙活動

【3】これまでの成果
北海道発のリサイクルラインの構築に成功し、既に3万個を超えるキャップを収集

I.T.L



【1】団体目標
サークルの集う場所を提供し、団体同士のネットワーク構築を目指す

【2】活動
in the loopというお店を拠点に様々なサークルにミーティングや交流会の場所を提供している

【3】成果
数多くのサークルが集い、新しいネットワークがどんどん生まれている

北大大集合



【1】団体目標
文化発信を通して大学と地域の交流を深めること

【2】活動
様々なサークルを集めて北大大集合というイベントを開催

【3】成果
去年開催された北大大集合では300人の集客を達成！

ピオネイロ



【1】団体目標
社会を「創る」こと

【2】活動
学生に「本気の場」を提供する「あんとれ大学」設立に向けて邁進している最中である

【3】成果
インターンをベースとした活動を数多くこなしている

Robot Field Produce



【1】目標
ロボット製作を通してモノ創りの尊さを広めること

【2】活動
各種ロボットコンテストの開催や、多額部との連携によるロボット工作教室を実施している

【3】成果
Robot Field Produce をこれまでに3回実施。合計43組もの親子が参加

インターナショナル学生ネットワーク



【1】目標
国際レベルの学生活動家ネットワークを構築すること

【2】活動
各学生主体による通訳集団により湯にサミットでの学生と海外生とのコミュニケーションをパワーアシスト

【3】成果
学生通訳8名編成！あとは本番までのお楽しみです

GAKUWARI





【1】目標
フリーペーパーGAKUWARIを通じて大学生同士の交流を深めること

【2】活動
GAKUWARIのための取材活動を行っている

【3】成果
R就職活動に関するイベントの主催やコンスタントなGAKUWARIの発行